

〔萬葉集相聞〕鹿島郡苅野橋別大伴卿歌一首并短歌

牝牛乃三宅之瀨爾指向鹿島之崎爾拔丹塗之小船儲玉纏之小梶繁貫略下

〔萬葉集有由〕緣井雜歌筑前國志賀白水郎歌

與去哉赤羅小船爾裏遣者若人見而解披見鴨

〔萬葉集雜六〕過辛荷島時山部宿禰赤人作歌

味澤相妹目不數見而敷細乃枕毛不卷櫻皮纏作流舟二眞梶貫吾榜來者略下

〔萬葉集略解六〕かにはまきは、今舟の舳を蕨繩して卷如く櫻の皮もて卷たるならん、

〔倭訓栞前編十四〕たな、しをぶね。萬葉集に、棚无小舟と見ゆ、舟は舳にも艦にも棚ありといふ

は非也、こはとも板へ板といふ、棚とはいはず、童蒙抄に、棚とは、うらうへのふなばたに打たる板

をいふ、舷也、至て小き船には棚もなきなりといへり、

〔萬葉集雜一〕二年○大壬寅太上天皇統幸于參河國時歌

何所爾可船泊爲良武安禮乃崎榜多味行之棚無小舟

右一首高市連黑人

〔萬葉集略解一〕棚無を舟は、和名抄柁不奈太那大船旁板也と有て、小舟には其たななければし

かいへり、

〔萬葉集雜三〕高市連黑人羈旅歌

四極山打越見者笠縫之島榜隱棚無小舟

〔古今和歌集戀十四〕題をらす

堀江こぐ棚なしをぶねこぎかへり同じ人にやこひ渡りなむ

讀人をらす

〔藻鹽草人事雜物并調度〕船